

長野市の若者に関する計画

素々案について

令和7年8月29日

こども未来部こども政策課

1 意見聴取概要

(1) 働く若者によるワークショップ

目的：若者の現状や希望の把握、市の若者施策の課題点の洗い出し、改善策の提案 など

対象、人数：40歳未満の若者14名

日時、場所：8月5日（火）午後4時～ 長野市役所

(2) 若者が対象となる支援等を実施する団体へのヒアリング

目的：若者の現状や支援状況、ニーズの把握、市の若者施策の課題点の洗い出し、改善の希望の聞き取り など

団体数：5団体

◆ hanpo（子ども・若者支援） ◆ 長野県子ども・若者サポートネット（子ども・若者支援拠点）

◆ わかさぼBase（若者支援拠点） ◆ ながの若者サポートステーション（就労支援）

◆ まいさぼ長野市（生活困窮者自立支援、就労支援）

日程：7月下旬～8月上旬（順次）

(3) 市長と学生の意見交換会（次期長野市総合計画策定に係る意見聴取を参考とするもの）

目的：若者の現状や希望の把握 など

対象、人数：大学等高等教育機関の学生15名

◆ 信州大学（教育学部・工学部） ◆ 長野県立大学 ◆ 清泉大学 ◆ 長野保健医療大学

◆ 長野工業高等専門学校 ◆ 長野美術専門学校 ◆ 信州スポーツ医療専門学校

◆ 岡学園トータルデザインアカデミー

日時、場所：8月19日（火）午後4時30分～ 清泉大学東口キャンパス

(4) ライフデザインワークショップ（企画政策部実施の意見聴取を参考とするもの）

目的：若者の現状や希望するライフデザインの把握 など

対象、人数：16～30歳の若者（高校生～若手社会人）11名

日時、場所：8月2日（土）午後2時～R-DEPOT、3日（日）午後1時～清泉大学東口キャンパス

(1)働く若者によるワークショップでの主な意見

① ライフプランについて

- ・ 市で結婚支援を実施しているが、個人間の結婚について介入することは難しい。
- ・ 出会いの場が少ない、仕事関係など限られている。
- ・ キャリアを考えると自然に晩婚化になる。結婚だけでなくライフプラン全体で考える必要がある。
- ・ ライフプランを描いたあと、一歩踏み出す、実現するための支援が必要

② 学ぶ機会、居場所、社会参画について

- ・ 進学に伴う教育費の負担が大きい。
- ・ ボトムアップの支援だけでなく、トップの英才教育も重要
- ・ 学校では学べないスキルを得る機会、ICT習得、AI活用等をe-ラーニングで学べるシステムがあるとよい。
- ・ デザインスキルはどの仕事でも大事なので、幅広くデザインを学習するための支援をしてはどうか。
- ・ 若者の地域交流の場が少ない。地域住民と交流する場を設ける。
- ・ 若者主体のコミュニティ創出、同世代でのイベントの開催
- ・ 地域への愛着を持てるような取組

③ 就労について

- ・ 起業家精神を持つ若者が少ないように感じる。
- ・ 地元企業を若者に知ってもらう機会が少ない。
- ・ 一つの企業に長く勤めて貢献することに対する支援も必要

(2) 支援等実施団体へのヒアリングでの主な意見

① 学ぶ機会、居場所について

- 子どもの頃から能動的に決定する経験や訓練が必要
- ファイナンシャルプランニングなどお金に関する教育が必要
- 福祉的要素が強いと、自分は行政からの支援が必要な人間と認識することになり、抵抗感を持つ若者も多い。
- ひきこもりであっても、イベントへの参加ならできることもあるので、きっかけづくりが大事
- 生活圏内で気軽に来訪できる拠点があるとよい。公共交通機関で行けるところがよい。
- 居場所へ行くための送迎があるとよい。
- 仲間づくりをするには、サードプレイスは本人が選んだほうがよい。
- 必要なことは、安心できること、話しやすい支援者がいること、特定のグループの場所にしないこと
- 新たなものをつくるよりも、既存のものにトッピングをするのがよい。
- 居場所となる場所は、民間も含めると既にたくさんあるが、わかりにくい。見える化することが必要

② 就労について

- 支援においては、「自立（ひとり立ち）」ではなく、「自律（助け合いながら生きていく）」を目指している。
- 自分にできること、できないことを理解すること（自己理解）の手助けをし、その人に合った仕事とマッチングをしている。自己理解ができていないとミスマッチが起こる。
- それぞれのニーズに応えることができるよう、就労体験ができる場をたくさん用意できるとよい。
- 出口（就職先）を充実させるべき。就職先として協力してもらえる事業所を開拓する体制を強化したい。
- 本人の自立する力を後押しする、足掛かりを見つける手伝いをするなど個々に応じた対応が必要

(2) 支援等実施団体へのヒアリングでの主な意見 (つづき)

③ 相談体制について

- 「場所」よりも、そこにいる「人」が重要、拠点があっても、信頼できる人がいないと、支援につながらない。
- 人員と資金が足りない。面談の予約がいっぱいですぐには対応できない。訪問の時間がとれない。
- 総合相談窓口のような拠点がハブとなり、個別の支援先につながるとよい。拠点には専門家を配置してほしい。
- 相談員と相談者だと上下関係を感じてしまう。お店とお客さんのようなフラットな関係が心地よいのでは。例えば、カフェや図書館に併設されている場所のような相談窓口らしくないものがよい。
- ひきこもり支援等は長期にわたるので、異動などで人が変わってしまうことのない仕組みが必要
- ライトな相談は、A Iに任せるなど工夫ができるとよい。
- 必要とする人に支援の情報が届くよう、若者支援のHPを作成するなど見える化してほしい。
- 困難を抱える若者の相談に応じる相談員が公民館を巡回するなどの取組があるとよい。本人の生活圏内に行くことが重要
- 家族からの相談も多く、まずは家族と話をしながら、当事者とつながるきっかけをつくっていく。
- 家族には、本人の状態を客観的に捉えてもらえるよう、アセスメントを用いている。
- 親子関係に問題があるケースが多いため、双方への支援をしていく必要がある。
- 自分がケアラーだと気づいていないケースも多い。家事支援だけではなく、本人のためのケアが必要
- 本気で自殺を考えてしまう人に対しては、専門的なアプローチが必要なため、心理士や保健師などの専門家を拠点に配置してほしい。

(3) 学生と市長との意見交換会での主な意見

① 居場所、社会参画について

- 地域とのつながりや関わりを持っていたい。地域のイベントに関わりたい。
- 地元で貢献したい。
- 人とのつながりがたくさんある人になりたい。
- これからの子どもたちにも地元を好きになってほしい。
- やりたいことをやりたいと言えるまちに住みたい。
- 同じモチベーションで頑張る人が周りにいるまちに住みたい。
- 自分がやりたいことを応援してくれる人が周りにいるまちに住みたい。
- 人との関わりや地域とのつながりがあるまちに住みたい。
- 住んでいる人が外に出たくなるようなまちに住みたい。
- 仕事や家庭だけでなく、サードプレイスも充実したまちに住みたい。
(若者の居場所として、図書館、カフェ、ショッピング施設、カラオケ、映画館などがあるまち)
- 安心して暮らせるまちに住みたい。

② 就労について

- 好きなことを仕事や収入につなげたい。
- 仕事をしながら心にゆとりを持ってプライベートも楽しみたい。
- ワークライフバランスを大切にしたい。
- 学生時代に学んだことを生かした仕事に就きたい。
- 自分のやりたい仕事をやって、妥協しない悔いのない人生を送りたい。

(4) ライフデザインワークショップでの主な意見

ライフプランについて

① どんなシーンでライフデザインに興味を持つか

- 家族や身内など身近な人の話を聞いたとき
- 学校でライフデザインの講義を受けたとき
- 同世代の行動を見聞きしたとき
- 家族に変化があったとき
- 先輩からアドバイスをもらったとき
- インスタのリールを見たとき

② どんな情報ならライフデザインに興味を持てるか

- 家族や身内の体験談など、リアルな話の方が信頼・安心できる。
- 危機感をあおりすぎないことも大切
- 選択肢が増え、多様化している社会の中で、どんな仕事があるか、どんなライフスタイルがあるかなど、選択肢を知りたい。
- 等身大の人の例を知りたい。

③ どんなコンテンツで情報を届けたいか

- 講演会、イベント、グループワーク
- 座談会、経験者に相談できる機会
- SNS、ブログなどのツールが効果的

2 分科会委員からの主な意見

第3回分科会での説明事項等に対し、委員からいただいた意見

(1) 学ぶ機会、居場所、社会参画について

- 意見表明を身につけていない世代、「言って変わった」という体験が少ない人にとって意見表明はハードルが高いのでは。
- 義務教育中は学校が所属場所であり一人一人を把握しやすいが、中学を卒業するとつかみきれなくなる。所属感を持つことができない人は希望が持ちにくいのでは。
- 現代の若者にとって必要なのは主体性・当事者性であると感じており、「参加から参画へ」という表現をしたい。
- 社会体験活動を通して、興味関心を増やしたり、コミュニケーションや社会で必要なスキルを学んだり、問題解決能力を高めることも必要
- 社会生活を円滑に送るための学びや体験を支援することも入れてはどうか。
- 場所があることで、若者の意見を聞く場所にすることもできるのでは。
- 子どもや若者に力を発揮してもらえる場を増やし、自分たちの未来は自分たちで切り開くという気持ちを育ててもらいたい。
- 自分の考えや希望を自由に語り合える場づくりが必要、堅苦しくならない場での意見表出の機会を増やすとよいのでは。
- 若者が当事者意識をもって何事にも取り組むことができる雰囲気づくりは自立支援にもつながるのでは。
- 居場所では自由に過ごすだけでなく、様々な活動ができるとよい。例えば、商店街の空き店舗を利用し、若者は地域のイベントなどに協力し、開業したい若者を商店会や商工会がサポートするなど、お互い支え合える関係づくりと社会活動の活性化になっていくとよい。

2 分科会委員からの主な意見（つづき）

（2）就労について

- 企業と連携し、就職のサポートをしていく体制ができれば、就職したい若者と雇用したい企業側のマッチングも可能ではないか。
- 若者が様々な職種を経験することにより、自分の適性を知り、社会に出るトレーニングができるように支援することも必要ではないか。例えば、繁忙期の農家の手伝い、イベントの手伝い、単純作業のアルバイトなど、若者の力を必要としている場を登録してもらい、若者にSNSで発信していくことはどうか。多様な人と出会うことができ、やり直しもきくので、不安を感じ、ひきこもりがちな若者が外に出るきっかけになることが期待できる。
- 市内企業の魅力発信、U・Iターン就職等に関連した項目を施策・取組等に入れてはどうか。

2 分科会委員からの主な意見（つづき）

（３）相談体制について

- 支援を考えている理想を押し付けるのではなく、一人ひとりの困り感に付き合ってくれる人や居場所、専門家だけではなく、体験者や経験された若者たちとチーム支援（サポート）を考えていくことも必要
- ヤング(若者)ケアラーについては介護保険サービスがスムーズに適用されるようケアマネジャーと相談できる体制を整え、アプリからサービスを予約できるようにするなど、簡単に依頼できる仕組みが必要
- ひきこもりやヤングケアラーとつながっていると思われるフリースクールやNPO団体との情報共有を積極的に進め、卒業後も孤立しないようにサポートする団体等への支援を考えてはどうか。
- 民間でひきこもりや生きづらさを抱えている子ども・若者を受け入れているところと連携してほしい。
- 悩みを抱えている方の相談の場や機会を市の施設にこだわらず、駅やショッピングモールなどで、ふらっと相談できるようにすることはできないか。
- ヤングケアラーやひきこもりの方が困っていることを伝えられるようにライン相談を設けるのも、早期発見につながると思う。
- 相談した当事者が安心していられる場を行政が開拓して紹介していくとよい。
- 子どもや若者たちが相談しやすい環境を関係者で話し合ってつくっていくための学習会を地域でやるといいのでは。
- 若者の自殺死亡率の高さの背景を知りたい。
- 相談を受けた際の適切な関わり方を学ぶ機会が必要

3 若者に対するアンケート調査結果、統計データ

(1) ライフプランについて

- 3割超の人は自分の将来に明るい『希望がない』としている。
- 男女とも未婚率が上昇しているが、6割以上の人が結婚の意向を示している。

(2) 居場所、意見表明について

- 「自分の部屋」「家庭」「インターネット空間」以外に居場所と感じる場所がない人が一定数いる。
- 地域や行政で若者の意見が尊重されていると『思わない』人が6割以上いる。

(3) 就労について

- 現在、就労していない人の約9割が就労意向を示している。
- 現在の仕事に『満足していない人』が4割以上おり、「労働時間が長い」ことを理由とする人が約3割、「休みが少ない」ことを理由とする人が約2割いる。

(4) 相談体制について

- 社会生活や日常生活を円滑に送れなかった経験がある人は約4割、現在、そのような状況にある人は2割弱おり、そうした人は自己肯定感や有用感が低く、将来に希望を持ちにくい傾向がみられる。
- 社会生活や日常生活を円滑に送れない状態になっても誰にも相談したくないと考える人が1割弱いる。
- ひきこもりやヤング（若者）ケアラー状態の人は一定数いるが、周囲に相談できていないなど潜在化しているケースも危惧される。
- 本市の自殺者数は減少傾向にあるものの自殺死亡率は横ばいで推移しているほか、男性20～30歳代の自殺死亡率は全国と比べて高くなっている。

4 若者を取り巻く課題と必要な支援

(1) ライフプラン形成と実現に向けた支援について

アンケート調査結果、統計データから見える課題

3割超の人が将来に明るい『希望がない』と回答しています。
また、男女とも未婚率が上昇していますが、6割以上の人が結婚の意向を示しています。

ワークショップで出された意見

選択肢が増え多様化している社会の中で、どんな仕事があるか、どんなライフスタイルがあるかなど選択肢を知りたいという意見や、キャリアを考えると自然に晩婚化になる、結婚はライフプラン全体で考える必要があるといった意見が出されました。



必要な支援の方向性

ライフプランについて考えたり、学んだ経験がある人ほど将来への希望を持てる傾向が見られることから、ライフプランについて考え、学ぶ機会の確保・充実が必要です。また、結婚についてはライフプラン全体における選択肢の一つとして考える機会の提供が必要です。

4 若者を取り巻く課題と必要な支援（つづき）

（２）－１ 居場所の確保・充実について

アンケート調査結果から見える課題

「自分の部屋」「家庭」「インターネット空間」以外に居場所と感じる場所がない人が一定数いることがうかがえます。

意見交換会で出された意見や分科会委員、支援団体からの意見

若者との意見交換会では、人とのつながりがたくさんある人になりたいという意見や、仕事や家庭だけでなく、サードプレイスも充実したまち（居場所として、図書館、カフェ、ショッピング施設、カラオケ、映画館などがある）に住みたいといった意見が出されました。

また、分科会委員からは、居場所では自由に過ごすだけでなく地域と連携した様々な活動の場とすべきという意見や、学校卒業後でも地域社会や仲間等とつながれる場があり所属感を持てることが重要であるといった意見が出されました。

さらに、支援団体からは、福祉的要素や行政色が強いと抵抗感を持つ若者が多いという意見や、民間で多くの居場所を提供しているが分かりにくいという意見、既存の場所を活用していけばよいといった意見が出されました。



必要な支援の方向性

民間団体等と連携し、若者が自分らしく安心して過ごせ、地域とのつながりを持ちながら主体的に活動できる場を確保するとともに、そういった場所の情報が若者に届くよう周知に力を入れることが必要です。

4 若者を取り巻く課題と必要な支援（つづき）

（２）－２ 社会参画の促進について

アンケート調査結果から見える課題

6割以上の方が地域や行政で若者の意見が尊重されていると『思わない』と回答しています。

意見交換会で出された意見や分科会委員からの意見

若者との意見交換会では、地域とのつながりや関わりを持っていたいという意見や、地元に貢献したいといった意見が出されました。

また、分科会委員からは、若者が当事者意識をもって意見を表明し主体性を持って地域活動等に参画することが必要であり若者が自由に語り合うことのできる場や主体的に取り組むことができる雰囲気づくりが重要であるという意見が出されました。



必要な支援の方向性

様々な場面や機会を通じて若者の意見を聞き、施策に反映していく仕組みづくりを進めるとともに、自分たちの未来や必要な取組について考え、話し合い、実現に向け主体的に活動することへの後押しや若者が地域や行政に参画しやすい環境をつくる必要があります。

4 若者を取り巻く課題と必要な支援（つづき）

（３）就労への支援について

アンケート調査結果から見える課題

現在、就労していない人の約９割が就労意向を示しています。
また、現在の仕事に『満足していない人』が４割以上おり、その理由は「労働時間が長い」が約３割、「休みが少ない」が約２割となっています。

ワークショップで出された意見や分科会委員からの意見

若者によるワークショップでは、起業家精神を持つ若者が少ないという意見や、地元企業を若者に知ってもらう機会が少ないという意見、一つの企業に長く勤めて貢献することに対する支援も必要といった意見が出されました。

また、分科会委員からは、企業と連携し就職のサポートをしていく体制ができれば、就職したい若者と雇用したい企業側のマッチングも可能ではないかという意見や、若者が様々な職種を経験することにより自分の適性を知り社会に出るトレーニングができるように支援することも必要ではないかといった意見が出されました。



必要な支援の方向性

就職や起業に関する情報のほか、地元企業について知る機会を提供するとともに、様々な就労体験の場やマッチングの機会を充実することにより、本人が持つ能力を理解し、生かすことができるよう、後押しする取組が必要です。

また、若者の希望に沿った柔軟で多様な働き方ができる職場環境づくりの促進が必要です。

4 若者を取り巻く課題と必要な支援（つづき）

（４）若者やその家族のための相談体制の充実と課題解決に向けた支援

アンケート調査結果や統計データから見える課題

社会生活や日常生活を円滑に送れない経験がある人は約4割、現在、そのような状況にある人は2割弱おり、そうした人は自己肯定感や有用感が低く、将来に希望を持ちにくい傾向が見られます。

また、社会生活や日常生活を円滑に送れない状態になっても誰にも相談したくないと考える人が1割弱いることが分かりました。ひきこもりやケアラー状態の人は一定数いますが、周囲の人に相談できていないなど潜在化しているケースも危惧されます。

本市の自殺者数は減少傾向にあるものの自殺死亡率は横ばいで推移しているほか、男性20～30歳代の自殺死亡率は全国と比べて高くなっています。

分科会委員や支援団体から出された意見

分科会委員からは、悩みを抱えている方の相談の場を市の施設にこだわらず、ふらっと相談できるようにすることはできないかという意見や自殺に関する相談を受けた際の適切な関わり方を学ぶ機会が必要といった意見が出されました。

また、支援団体からは、総合相談窓口のような拠点がハブとなり、個別の支援先につながるとよいという意見や、拠点には専門家を配置してほしいという意見、本人だけでなく家族支援も重要であるという意見、ひきこもりであっても、イベントへの参加ならでできることもあるので、きっかけづくりが大事という意見、心理士や保健師などの専門家を拠点に配置してほしいといった意見が出されました。

必要な支援の方向性



困難な状況にある人の実態把握を進めるとともに、相談しやすい場を提供し、個々の課題解決に向けて、適切な支援機関につなぐ包括的な支援体制が必要です。

また、若者の自殺の実態を把握し、関係機関や専門機関と連携した自殺予防対策や身近な人からのＳＯＳを受け止め、適切に対応できる人材の育成が必要です。

5 若者に関する計画 基本方針(案)

【基本理念】（目指す姿）

案①

全ての若者が多様な価値観や個性を尊重され、
希望をかなえる未来の実現を目指して

案②

全ての若者が自分らしく成長し、
希望をかなえる未来の実現を目指して

全ての若者が、多様な価値観や個性を尊重され、自分らしさを大切にしながら心身ともに健やかに成長する中で、自らの将来に夢や希望を育み、その実現に向けて歩みを進められるようになることを目指します。

※「自分らしく」

基本的な人権や権利が守られ、一人ひとりの個性や意見が尊重され、その能力を最大限延ばすことができ、夢や希望を持ち、その実現に向けて、周りの理解や支えを得ながら成長していくことを表現しており、長野市子ども・子育て支援事業計画と共通する考え方です。

【基本目標】

若者が将来の希望に向かって挑戦し、
だれもが社会の一員として活躍できるよう支援する

若者が自らの将来に描く希望の実現に向けて前向きに挑戦できるよう後押しするとともに、全ての若者が地域の一員として認められ、それぞれが自分らしく貢献できる場所を見つけ、活躍できるようになることを地域全体で支えます。

5 若者に関する計画 基本方針(案) (つづき)

【基本的な視点】

若者の権利の保障と
最善の利益

若者を権利の主体として認識し、その権利を保障し、若者の今とこれからの最善の利益を第一に考えた取組を推進します。

全ての若者の
Well-beingの向上

将来にわたり全ての若者が身体的・精神的・社会的に幸せな状態（Well-being）で暮らしていくことを支えます。

若者の多様な価値観、
考え方の尊重

若者の多様な価値観や考え方を前提とし、その人格や個性を尊重し、自分らしく健やかに成長していけるよう支えます。

若者の意見の尊重と
施策への反映

若者の意見をしっかりと聞き、それらを尊重するとともに、市の施策に反映させていきます。

6 若者に関する計画 体系(案)

基本理念	基本目標	基本的な視点	基本施策	個別施策
全ての若者が多様な価値観や個性を尊重され、 希望をかなえる未来の実現を目指して	若者が将来の希望に向かって挑戦し、 だれもが社会の一員として活躍できるよう支援する	・若者の意見の尊重と施策への反映 ・若者の多様な価値観や考え方の尊重 ・全ての若者のウェルビーイングの向上 ・若者の権利の保障と最善の利益	若者への支援の充実	1 ライフプラン形成と実現に向けた支援
				2 学ぶ機会や居場所の確保・充実と 社会参画の促進
				3 就労への支援
				4 若者やその家族のための相談体制の 充実と課題解決に向けた支援

7 若者に関する計画 基本施策(案)

基本施策 若者への支援の充実

若者が将来を見通し、希望するキャリアやライフプランを実現できるよう後押しするとともに、一人ひとりが持つ可能性を広げ、才能を発揮しつつ、希望や意欲に応じて社会に貢献し、活躍できるよう支援します。

若者やその家族が気軽に相談できる場を提供し、課題解決に向けた包括的な支援につなげます。

1 ライフプラン形成と実現に向けた支援

若者が明るい未来をイメージしてライフデザイン（人生設計）ができるよう、参考となる情報や将来を考える機会を提供するとともに、それぞれの希望の実現に向かって踏み出せるよう支援します。

2 学ぶ機会や居場所の確保・充実と社会参画の促進

経済状況等にかかわらず修学できる機会を提供するとともに、若者が自分に合った居場所を見つけ、多様な学びや体験、交流を通じて地域や人とのつながりが持てるよう支援します。また、様々な場面において、若者の主体的な行動や地域社会への参画を促進します。

3 就労への支援

若者が経済的に自立し、将来に見通しと希望を持つことができるよう、就職に関する情報や企業とのマッチングの機会を提供するとともに、起業への支援をします。また、それぞれの希望に沿った柔軟で多様な働き方ができる環境づくりを促進します。

4 若者やその家族のための相談体制の充実と課題解決に向けた支援

若者やその家族が気軽に相談できる場を提供するとともに、個々の課題や不安、困りごとに寄り添い、課題解決に向けて関係機関や専門機関と連携して包括的に支援します。

また、若者の自殺の実態を把握し、関係機関や専門機関と連携して効果的な自殺予防対策を推進します。自殺に対する正しい知識の普及啓発や相談窓口の周知を進めるとともに、身近な人からのＳＯＳを受け止め、適切に対応できる人材を育成します。